白山地域焼畑調査報告書

1994年3月

石川県白山自然保護センター

序

かつて全国の多くの山村ではヒエやアワの雑穀類を栽培する「焼畑」が盛んに行われていました。焼畑は、森林原野の樹木を伐採・火入れして耕地化し、次いで人間の生活の糧となる作物を栽培し、その後に数十年間の休閑期間をおいて植生の回復をはかり、再び焼畑に利用するという資源の循環利用が特徴の農業です。白山麓の村々も、昭和30年代までは日本の代表的な焼畑地の一つとして全国的によく知られていましたが、高度経済成長期以後の過疎化の進展に伴い、焼畑は急激に衰退しました。今では、焼畑を見かけることはほとんどなくなり、焼畑耕作中の現地で調査研究を行う機会が遠からず無くなるものと考えられます。白山麓の焼畑研究については、戦前から主として人文科学面での研究成果が積み重ねられてきましたが、自然科学系の研究はあまり行われなかったのが現状です。焼畑が白山麓から消滅する前に、こうした自然科学面での調査研究を進め、その成果を残しておくことが急務となっています。

石川県では、平成３年度から５年度までの３か年にわたって〝焼畑調査事業〟を行い、自然科学分野を中心に焼畑の調査を実施し、今まさに消えようとしている焼畑の記録を本書にまとめました。今回の事業では、焼畑地における植生変遷・生育植物・土壌・昆虫相、そして焼畑の栽培作物等について、実際に焼畑の作業を行っている現地において調査しました。その結果、焼畑作業後の畑地における植生の変遷モデルの作成や、焼畑地における害虫と天敵の存在といった分野で新たな知見が得られました。これらを記録する一方で、焼畑が持つ自然資源の循環利用や無農薬農業といった考え方を、一般に理解してもらい、広く普及させることも本調査の目的の一つです。この報告書が、ともすれば環境破壊の元凶と見なされがちな焼畑に対する誤解を解き、併せて山村の伝統文化の一形態である焼畑に対する理解を深める一助となれば幸いです。

本調査に際しては、富樫一次・長谷川和久・高　順一郎・橘　禮吉・伊藤常次郎の各氏、並びに小原地区焼畑伝承グループと里山トラストの皆様に多大なご協力を頂きました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

平成６年３月

石川県白山自然保護センター所長　米山競一

目　　次

I　調査の概要 …… 1

II　白山麓の焼畑 …… 6

III　焼畑土壌の理化学性 ……23

IV　小松市小原地区の焼畑利用地の植生 ……34

V　小原地区の焼畑の畑地雑草の生活形について ……52

VI　焼畑の昆虫相 ……59

VII　焼畑のクモ相 ……76

VIII　焼畑栽培作物 ……81

IX　焼畑の今後について ……95